

令和5年度 第3回 清竜中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年11月27日（月） 14時から16時まで
- 2 開催場所 清竜中学校 多目的室
- 3 出席委員 藤井信男、西田躬穂、内藤留美子、阿蔵直子、森下伸弘、平野尚美
- 4 欠席委員 田村和史、出野光雄、鈴木省吾
- 5 オブザーバー 伊奈真理子（市民部文化財課）
- 6 学校支援コーディネーター 野口めぐみ
- 7 学校 野中崇（校長）、嶋田喜守（教頭）、鈴木政晴（CS担当）、湯澤亜湖（CSディレクター）
- 8 教育委員会 牧野知子（教育総務課）
- 9 傍聴人 なし
- 10 協議事項
 - (1) 伝統芸能の伝承に向けた取組について
 - (2) 全国学力学習状況調査・生徒質問用紙等から得た生徒の実態と今後の取組について
- 11 会議録作成者 CSディレクター 湯澤亜湖
- 12 議長の選出
司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、藤井委員より阿蔵委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 13 会議記録
議長から委員総数10人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 伝統芸能の伝承に向けた取組について

議長の指示により教頭から別紙資料に基づき、伝統芸能の伝承に向けた取組についての説明があった。また、市民部文化財課伊奈真理子氏からも市内の無形文化財、及び市内小中学校の取組について説明があった。

委員からは以下の発言があった。

・昔は総合的な学習の中心として伝統芸能に活動時間の多くを充てていた。生徒の人数が多く、専任の教員もいたが現状では難しい。座学や見学だけでなく、生徒たちが伝統芸能を実際に体験できるような場を考えていきたい。

（藤井委員）

・神澤おくないについて。地元住民の高齢化などで伝承、指導できる人がいない。現在、保存会が活動を行っているが地元を離れた人が中心となり、当時の神澤おくないとは形や内容が違う。（森下委員）

・懐山おくないについて。今年は地元出身の20代が中心となり活動を行っている。（野口委員）

・懐山おくないについて。下阿多古小学校では伝統芸能の授業や活動はない。まずは存在を知ってもらうことが大事。お囃子に使う笛や太鼓を音楽の授業で取り扱うなどができればいいのではないか。(平野委員)

・本の読み聞かせ活動において、神澤おくない、懐山おくない、遠州大念仏についての本を取り扱っている。(野口委員)

・授業以外の時間で伝統芸能について活動することはできないか。
(森下委員)

・都田小、中学校は伝統芸能を部活動としている。保存会が学校まで出向き指導している。(伊奈氏)

・部活動の地域移行が増えている現状を踏まえると、今から新しい部活動として伝統芸能部を作ることは難しい。伝統芸能に興味を持った生徒を受け入れて指導、活動できるような仕組みが地域にできれば、今後とも持続可能な形でいいのではないか。そのような活動と生徒とを学校が繋いでいけるようにしたい。(校長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 全国学力学習状況調査・生徒質問用紙等から得た生徒の実態と今後の取組について

議長の指示により、研修担当菅沼から別紙資料に基づき全国学力学習状況調査・生徒質問用紙等から得た生徒の実態と今後の取組について説明があった。委員からは以下の発言があった。

・道徳授業を見学したが、発表の時間になると生徒たちが静かになってしまう。ICTを活用すればこのような発表もしやすくなるのか。(藤井委員)

・タブレットを使用した授業は意見の匿名性もあり、発表しやすいように感じる。(西田委員)

・授業で学習したことが社会に出た際に生活や仕事と繋がられるようになってほしい。(平野委員)

・作文などの表現能力をもっと向上させてほしい。(森下委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

・第1回清竜中学校区学校支援コーディネーター連絡会について報告
(野口委員)

・清竜中学校同窓会について(教頭)

・司会から次回会議は、令和6年2月20日(火)14時から多目的室で開催する旨の報告があった。

以上